

国際学院新聞

第61号
(編集発行)
学校法人国際学院
〒330-8548
さいたま市大宮区吉敷町2-5
TEL 048 (641) 7468
FAX 048 (641) 7432
インターネットホームページアドレス
http://www.kgef.ac.jp/

主なニュース

- 55周年を迎えるにあたって、論説、KGブランド ……2面
- 幼児絵画展・味彩コンテスト開催、実習報告 ……3面
- インドネシアの中学校来校、クラブ活動報告 ……4面
- モンゴル料理講習会、世界異文化化学習会、IFW ……5面
- 体育大会・体育祭、五峯祭、研修旅行 ……6面
- ホームカミング講座、校友会・生徒会活動 ……7面
- 卒業生近況報告、ベストブック、進路体験記 ……8面

国連GCに国際学院が加入



「持続可能な開発目標」達成を目指す 教育内容と質の充実向上を図る

2030年を期限とする17の目標(SDGs)

学校法人国際学院は、平成30年12月4日、国連グローバル・コンパクト(UNGC)に正会員として加入した。

この加入は、UNGCの目標実現に積極的に取り組む教育機関として認定されたことによるもので、2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」(SDGs)の17目標、169ターゲット、230指標の実現に向けて、本学院の各校が具体的な取り組みを実施することになる。

UNGCは、戦後世界が合意形成してきた共通価値観を10原則にまとめ直し、これを内外のステークホルダーに浸透させる活動を通して、「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組み。1999年の世界経済フォーラム(ダボス会議)でコフィー・アナト国連事務総長(当時)が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足した。2018年4月現在で161か国・1万2922の企業・団体が署名している。

今後においては、短期大学では、SDGsを掲げた卒業研究のゼミナール展開を図り、17の目標のいずれかに焦点をあて、研究の深化を図るとともに、地域の生涯学習の場として開催してきた公開講座においてもSDGsの目標を示し、よりの質の高い学びの提供を目指している。

また、中学校高等学校において、ユネスコのクラスルームネットワークへの加入は、これまでも、海外大学等との教育提携や海外研修、ユネスコスクールなどの取り組み等を実施し、

国際学院創立から現在に至るまでの55年の長きに亘り、建学の精神に基づき「人づくり」を基本とした教育・研究、社会貢献活動への情熱と弛まぬ努力の積み重ねを表現している。

国際学院創立者 大野誠 学院長の胸像完成

大宮キャンパスで除幕式挙

学校法人国際学院創立者である大野誠学院長の胸像(肖像彫刻)がこのほど完成し、11月21日に大宮キャンパス玄関ホールで除幕式を挙

この胸像は、彫刻家の木田詩子氏によるもので、テッサン開始から完成まで約6か月間を費やし完成した。大野誠学院長の学校法

た。大野誠学院長の学校法

た。大野誠学院長の学校法

た。大野誠学院長の学校法

た。大野誠学院長の学校法

国際学院創立55周年記念講演会 講師にキックコマン総合病院の久保田院長を迎え開催



12月12日の学院創立55周年記念講演会がキックコマン総合病院の久保田芳郎院長を講師に迎え、「食と健康」をテーマに、大宮ソニックシティ大ホールを会場に開催する。

久保田院長は、東京大学医学部を卒業後、東京大学

また、同氏は、これまでに関東信越税理士会会長、日本税理士会連合会副会長等の重責を歴任し、税理士として税務に関する専門家として、国や地域に多大な貢献をしてきた。同氏の今後さらなる活躍が期待されている。

大野博之理事長が藍綬褒章受章

陛下に拝謁、お言葉賜る



平成30年秋の褒章で本学院の大野博之理事長(国際学院埼玉短期大学学長・国際学院中学校高等学校校長)が、多年にわたり教育事業などの発展に寄与した功労者に贈られる藍綬褒章を受章した。

11月14日には、文部科学省で伝達式が行われ、その後、皇居に参内し、豊明殿において天皇陛下に拝謁し、お言葉を賜った。

今回の受章について大野理事長は、「受章は、日ごろの教職員、各校における尽力によるもので心から感謝している。天皇陛下のお言葉を拝聴し、身の引き締

まる思いがした。今後益々、教育研究・社会貢献活動に邁進する所存である」と語っている。

今回の受賞は、大野理事長の国際学院における取り組みはもとより、文部科学省や私学団体の各種委員としての活動等が我が国の教育振興に貢献していることが、国からも高く評価されたものと拝察する。

この受賞に際し、大野理事長のリーダーシップのもと、国際学院の「人づくり教育」の益々の充実・発展に期待する声が祝意とともに寄せられている。

清水武信監事

旭日小綬章受章

平成30年秋の叙勲で学校法人国際学院の清水武信監事が旭日小綬章を受章し

本年度のIFW(インターナショナル・フレンドシップ・ウィーク)が、11月18日から25日の間、13か国・地域から17校が参加して香港で開催された。

3日目に、Hong Kong Baptist Universityにおいてグローバル・ユース・フォーラムが開催され、各国の「自分たちの世代の考え」をポスターにまとめて、それぞれが発表した。

その結果、国際学院の生徒の発表が、各国からの票を最も多く集め、最優秀ポスターチームに輝いた。

参加した5名からは、「慣れない環境下における英語での発表や異文化間交流を通し、知見を広げることができました」と帰国するなり誇らしげに報告する姿が見られた。

照 敦

文化芸術の秋、短期大学の音楽室から、童謡「ゆゆうやけこやけ」の歌声が聞こえてきた。覗いて見ると、三十数名の愛好家が講師の指揮に合わせ、身を乗り出して歌っている。専門的なことはわからないまでも心地よく耳に入ってくる。郷愁を覚えたのか、一緒に口遊んでしまうような素敵な歌声だ。一人ひとりの豊かな表情とともにその光景が今も脳裏に残る。大学公開講座の一齣である。

▼今年、大正七年(一九一八年)に童謡や童謡を掲載した文芸雑誌「赤い鳥」が刊行され、節目の百年を迎えた。国内各地で記念コンサートなどが開催されている。▼「赤い鳥」は子どもたちの心により添った真の芸術としての音楽の普及をめざした児童文学者・鈴木三重吉氏により発刊されたもので、以来、日本を代表する優れた詩人や作曲家の多くが四季折々の豊かな自然の風土や歴史、さらに人々のやさしい感情などを詩や曲に込めて表現している。日本が世界に誇れる大切な文化遺産である。▼公開講座が終了すると、一人の女性が声を掛けてくださった。小さい頃、愛する母がいつも傍で歌ってくれた童謡が自身にとって無形の宝物であり、懐かしさでこの講座に参加されたとのこと。童謡に因んだ幼少時の様々な想いも沁々とお話され、何か私の琴線に触れた。▼地域貢献として「人と人との心を繋ぐ公開講座」だからこそその感動であり、出会いでもあった。

国際学院創立55周年記念号

国際学院創立者・学院長 大野 誠

学校法人国際学院は、昭和38年に埼玉県知事認可の公認大宮国際学院として開校以来、今年で55年目を迎えました。

本学院は、「人づくり教育」に重きをおき、建学の精神の徹底と教育方針を頑なに貫いてきました。

「国際」という名称は、当時、自民党副総裁の大野伴睦先生と、元文部大臣松永東先生から「これからの人々の生活の原点は、幼



論説



国際学院創立55周年に、短期大学の教育に関する大変ホットなニュースを届けられることは誠に喜ばしいことである。それは、短期大学の必修科目「卒業研究」がゼミナール形式という新たな取り組みを迎えることである。

現在、卒業研究は2年次の通年科目であり、学生がどの専門教育領域を選択するかの調査を1年次の修了前に実施し、4月頃に各人の決定した専門領域が知らされ、その後卒業研究領域に分かれ、担当教員の指導を受けながら題目を決め、授業時間割に設けられた時間内に

間を中心に取り組んでいく。研究題目が決まれば、2年次の後期の1月中旬頃を以て文献調査やアンケート調査、実験等に取り組み、得られた結果を論文としてまとめることになるが、経験のない学生が一定の期限内に仕上げるのは容易なことではなく、学生自身にとっても指導教員にとっても大変な努力を要する。論文が完成し、大学で受理された時の達成感、満足感に満ち溢れた学生の顔が目に浮かぶ。

このような展開が進められ、まとめられた「卒業研究」は短期大学図書館に永久保存されてお

り、現在、合計1,212冊に及んでいる。加えて、この学修成果は、毎年、全員ではないが2月に実施される卒業研究発表会において公開・発表されている。このように多大な教育効果を生み出しているが、これは指導に携わられている教員方の日頃のご努力の賜物である。

ゼミナール形式の導入

短期大学の「卒業研究」の新たな取り組み

あり、この場を借りて感謝申し上げたい。

ところで、文部科学省は、大学教育の質の向上を目指して平成16年度に「特色ある大学教育支援プログラム（特色G.P.）」事業を開始しており、これに「卒業研究による短

専攻として位置づけ、知識・技能の修得のみならず高い教養を身に付けた「短期大学士」の学位を取得できる調理学士の養成を実現しました。

また、昭和60年に現理事長・学長の留学先であるカリフォルニア大学バークレー校の訪問を契機に、4年制大学の必要性を強く認識いたしました。

同時に、当時の畑和埼玉県知事の「15歳の春を悲しませるな」との言葉から後期中等教育校の必要性を痛切に感じ、当時の時代背景もあり、昭和63年に国際学院伊奈高等専修学校を開校し、その後、平成10年に国際学院高等学校へと改組しました。

さらに、平成25年には、中学校を併設開校し、国際学院中学校高等学校となりました。

私には、今日まで人との出会いを大切に、数多くの師と仰ぐ人達の教えを人生の教訓とし、「人づくり教育」に邁進して参りました。そうしたいのが多くの人たち共感を得て、国際学院は支えられ、今日があるのだと信じています。

学院創立55周年を迎えるにあたり、本学院の歴史と伝統、諸先生方の教育にかけける情熱に想いを馳せるとともに、改めて学生生徒の皆さんには、「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の五つの言葉からなる建学の精神と、具現化するための「礼をつくし、場を清め、時を守る」の教育方針の一語一語をじっくりと考え、身を以て示してもらいたいと切に願っています。

人づくり教育と建学の精神

私は、今日まで人との出会いを大切に、数多くの師と仰ぐ人達の教えを人生の教訓とし、「人づくり教育」に邁進して参りました。そうしたいのが多くの人たち共感を得て、国際学院は支えられ、今日があるのだと信じています。

学院創立55周年を迎えるにあたり、本学院の歴史と伝統、諸先生方の教育にかけける情熱に想いを馳せるとともに、改めて学生生徒の皆さんには、「誠実、研鑽、慈愛、信頼、和睦」の五つの言葉からなる建学の精神と、具現化するための「礼をつくし、場を清め、時を守る」の教育方針の一語一語をじっくりと考え、身を以て示してもらいたいと切に願っています。

認定食育士養成講座を開講

20代の朝食欠食の割合が高く、地産地消が進まない等の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講しました。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

KGブランド確立へ3年目

時代の流れに即応した改革の推進へ

KGブランドの確立に向けた取り組みも3年目を迎えた。今後、成果の可視化と検証を進め、実効性の確保が求められている。

取組の可視化に向けて

したがって、さらに発

等々の戦略的推進」として平成26年度から28年度の3年間、申請・採択された「産学協働による認定食育士制度の構築及び実践」において、農林水産省関東農政局や埼玉県、日本ハム(株)、東京ガス(株)、埼玉経済同友会等の参画を得て、養成カリキュラムや認定制度を構築し実施するもの。

講座の中心となる養成カリキュラムは、食の見識力を身につける食育教養ラー

座を実施している。今回の受講者からは、「講座で身に付けた実践に基づき知識等を活かして、地産地消や健康寿命延伸に寄与できる食育活動を実践したい」等の感想が寄せられている。

短期大学では、地域社会の食育推進に向けて、より多くの認定食育士を社会に送り出すため、次年度以降も講座の開設を計画している。

財務情報

純資産更に増加

平成29年度の決算概況をお知らせします。

資金収支計算書では決算総額は約40億円となりました。収入の部では、学生生徒等納付金収入が対前年77百万円減少しました。支出の部では大宮キャンパスバリアフリー化工事、調理実習室改修工事、伊奈キャンパス渡り廊下設置工事等教育施設整備を行いました。全体では4億36百万円減額となりました。また、事業活動収支計算書では、教育活動収支は1億32百万円の黒字、教育活動外収支は17百万円の赤字となりました。

貸借対照表では、「資産の部合計」は、127億7百万円で、前年度末に比較し1億84百万円減少しました。「基本金」は、1号基本金が3億98百万円、2号基本金が20百万円増加しました。

以上の結果、「純資産」は、92億19百万円となり、前年度末に比較して、1億31百万円増加しました。詳しくは、当学院のホームページをご覧ください。

グローバル・コンバクトへの加盟

グローバル・コンバクトへの加盟

本年12月、学校法人国際学院をはじめ、国際学院中学校高等学校と国際学院埼玉短期大学は、グローバル・コンバクトに加入した。

これは、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みであり、国連が目指している持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向けて、今後、学校法人国際学院並びに中学校高等学校、短期大学が積極的

教育環境整備も着実に

教育環境整備も着実に

教育環境の整備も確実に進めている。大宮キャンパスにおいては本年3月、本館入口に懸案であった昇降機を設置。また、第3調理実習室前のトイレをバリアフリー化するなど、ユニバーサルデザインに配慮した教育環境整備を進めた。

また、伊奈キャンパスにおいても2号館設置に関連してテニスコート整備が懸案であったが、本年7月、人工芝によるテニスコートの新設を実現することができた。

さらに、近年は、地震や台風など自然災害による大規模被害が各地で多発している。引き続き、補助金の活用や多様な財源の確保を進めながら、学生生徒の安全・安心に配慮した教育環境整備に意を用いていく必要がある。

KGブランドの確立へ3年目

KGブランドの確立へ3年目

時代の流れに即応した改革の推進へ

KGブランドの確立に向けた取り組みも3年目を迎えた。今後、成果の可視化と検証を進め、実効性の確保が求められている。

取組の可視化に向けて

したがって、さらに発

認定食育士養成講座を開講

認定食育士養成講座を開講

20代の朝食欠食の割合が高く、地産地消が進まない等の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講しました。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

KGブランドの確立へ3年目

KGブランドの確立へ3年目

時代の流れに即応した改革の推進へ

KGブランドの確立に向けた取り組みも3年目を迎えた。今後、成果の可視化と検証を進め、実効性の確保が求められている。

取組の可視化に向けて

したがって、さらに発

教育環境整備も着実に

教育環境整備も着実に

教育環境の整備も確実に進めている。大宮キャンパスにおいては本年3月、本館入口に懸案であった昇降機を設置。また、第3調理実習室前のトイレをバリアフリー化するなど、ユニバーサルデザインに配慮した教育環境整備を進めた。

また、伊奈キャンパスにおいても2号館設置に関連してテニスコート整備が懸案であったが、本年7月、人工芝によるテニスコートの新設を実現することができた。

さらに、近年は、地震や台風など自然災害による大規模被害が各地で多発している。引き続き、補助金の活用や多様な財源の確保を進めながら、学生生徒の安全・安心に配慮した教育環境整備に意を用いていく必要がある。

認定食育士養成講座を開講

認定食育士養成講座を開講

20代の朝食欠食の割合が高く、地産地消が進まない等の状況の中、国際学院埼玉短期大学では、産学官が連携して開発したプログラムに基づき、地域社会や企業内での食育推進を担う「認定食育士」を養成する講座を本年6月から開講しました。

この講座は、文部科学省の委託事業「成長分野等における中核的専門人材養成

KGブランドの確立へ3年目

KGブランドの確立へ3年目

時代の流れに即応した改革の推進へ

KGブランドの確立に向けた取り組みも3年目を迎えた。今後、成果の可視化と検証を進め、実効性の確保が求められている。

取組の可視化に向けて

したがって、さらに発

教育環境整備も着実に

教育環境整備も着実に

教育環境の整備も確実に進めている。大宮キャンパスにおいては本年3月、本館入口に懸案であった昇降機を設置。また、第3調理実習室前のトイレをバリアフリー化するなど、ユニバーサルデザインに配慮した教育環境整備を進めた。

また、伊奈キャンパスにおいても2号館設置に関連してテニスコート整備が懸案であったが、本年7月、人工芝によるテニスコートの新設を実現することができた。

さらに、近年は、地震や台風など自然災害による大規模被害が各地で多発している。引き続き、補助金の活用や多様な財源の確保を進めながら、学生生徒の安全・安心に配慮した教育環境整備に意を用いていく必要がある。

第33回 幼児絵画展を開催

96園・所から 892点の応募 最優秀作品賞など15の賞選出

幼児絵画展は、五峯祭（大学祭）に合わせて、11月3・4の両日、多くの来場者を迎えて開催した。昭和61年の第1回から数えて今年で33回目となる。

この絵画展は、埼玉県内の幼稚園や保育所、こども園等に通う年少児から年長



表彰式の様子

児までを対象に、幼児教育における表現活動への興味・関心を高め、県内幼児教育の振興に寄与することを目的としている。

表彰式は、会場の混雑緩和の観点から、日曜日の午前午後に分けて2回実施している。賞状受領時に緊張していた子どもが、表彰を終えて保護者のもとへ戻ると嬉しそうな笑顔を見せる姿や、一方で表彰される場所に緊張してしまい、泣きそうになる子どもの姿、お洒落をして賞状を受け取る子どもの笑顔、さらにその様子を見守る保護者、また、「おめでとう」の言葉と折り紙メダルをプレゼントする笑顔の学生たち。

第26回 味彩コンテスト

県産食材使い腕競う



試食審査

平成30年5月3日に第26回「味彩コンテスト」が国際学院埼玉短期大学で開催された。このコンテストは、主催が国際学院埼玉短期大学及び同窓会「あすなろ会」・「けやき会」、後援団体として関東農政局、埼玉県、さいたま市をはじめ他6団体と、協賛団体は13団体の協力を得ての開催と

なつた。本コンテストは、食生活の改善や地産地消を目的とした料理コンテストとして平成5年から開催されている。昨年同様、課題は埼玉県産の鶏卵や野菜と黒豚（高校の部は国内産豚肉）を使用し、一般の部は「ごはんにあう彩り主菜料理」、高校の部は「素材の味と彩りをいかした高校生

のバランス弁当」とし、一般・高校生を対象に募集した。応募者総数は356名（一般の部227名、高校の部129名）の応募であった。この中から、事前に第一次審査（レシピ審査）を経た一般の部18名、高校の部10名が、コンテスト当日の第二次審査（調理・試食審査）に臨んだ。

味彩コンテストの様子。5月8日付けの埼玉新聞にも掲載され、その意義や内容を広く埼玉県民に紹介された。最優秀作品は五峯祭において、「彩り亭」のメニューとして多くの来場者に賞味された。

味と彩りをいかした高校生（高校生部）が、高校の部では、国際学院高等学校2年の遠藤七海さんの「ごろっと里芋！彩り弁当」が選ばれた。審査結果がまとまるまでの時間を活用して関東農政局の鶴岡課長から、参加者向けに「食は楽しく、食選力をつけよう！」と題した講演を頂き、大変好評であった。

教育実習を終えて 保育者と子どもとの関わり

幼児保育学科2年B組 大須賀瑞生



出身幼稚園で3週間教育実習をさせて頂きました。今回の実習では、「昨年の観察実習での反省点を活かす」を土台とし、「積極的

保育実習を終えて 保育の価値観広がる

幼児保育学科2年C組 中村 柊人



私は自転車約10分の所にある保育所で、12日間の保育実習を終えることができました。今回、実習を行った園では「はだし保育」を取り入れていて、園に

児童養護施設実習を終えて 子どもと職員との関わり学ぶ

幼児保育学科2年A組 石船あかり



今回、初めて児童養護施設で12日間の実習を行いました。当初、私は児童養護施設に対して暗い印象があり、どのように関われば良いか悩んでいました。しかし実際に実習をしていくにつれ、子どもたちは明るく生活をしていることに気付きました。たくさん質問してくれたり、一緒に遊んだり、有意義な時間を過ごすことができました。

校外実習を通して学んだこと 信頼される栄養士へ努力

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 小沢 珠嬉



私は、今回の校外実習で、事業所内の社員食堂で実習を行わせていただきました。実習では包丁を使用し、仕込み作業を行うことが多く、一度に大量の食材を指定の大きさや形に切る技術が必要とされました。私は校外実習の前に学内で実施される包丁テストのために、包丁の練習を重ね、すべての切り方を修得していたのですが、実習先の方々と比べるとスピードも技術も劣っており、まだまだ未

校外実習を通して学んだこと 実習で学んだ調理師の魅力

健康栄養学科 調理製菓専攻2年C組 木村 麻耶



私は1年次の2月に、東京都港区にある阪急阪神ホテルズ第一ホテル東京の調理現場で2週間校外実習をさせて頂きました。初めての校外実習はとても不安でしたが、第一ホテル東京にはたくさんの本学の卒業生が働いているため、とても心強く感じました。実習では、主に食材の切りものや盛り付けを行いました。はじめは指示されたことを行うことしかできな

教育実習（栄養教諭）を通して学んだこと 事前準備の大切さ実感

健康栄養学科 食物栄養専攻2年A組 佐藤 佑香



私は9月10日から1週間、母校である越谷市立西方小学校で栄養教諭の教育実習に臨みました。様々な先生方の授業を見学し、授業の進め方や児童との接し方などを学ぶことができました。最終日には、45分間の研究授業を行いました。実際に授業を一行いきました。説明の仕方や媒体を考えることが大変でしたが、児童たちが一生懸命に参加して



賞状とともに

射撃部

世界大会でメダルを

全国大会個人戦優勝・団体戦準優勝 渡部奏乃音(鴻巣市立赤見台中学校)

「射撃と出会って人生が90度変わった」。3年間の部活動生活を終えた今、私はこう感じています。幼少期からヴァイオリンで音大を目指し、ピアノやバレエなどの芸術面に力を注いできたため、スポーツ

「射撃と出会って人生が90度変わった」。3年間の部活動生活を終えた今、私はこう感じています。幼少期からヴァイオリンで音大を目指し、ピアノやバレエなどの芸術面に力を注いできたため、スポーツ

積み重ねる粘り強さは射撃の大きな土台となつていきます。他にも、一人で楽器を演奏する際には味わうこととの出来なかつた仲間同士で励まし合ひながら切磋琢磨していく事、お互いに助け合っていくという事が出来る「仲間」の大切さや、コーチ・監督、顧問の先生方との信頼関係を築き上げることが勝利への鍵となるという事も実感しました。

射撃を始めたことにより日々の練習で指導して下さるコーチや監督、顧問の先生方を始め、友達として時にはライバルとして戦う仲間、そして、どんな時も一番側で支えてくれる家族の存在の有難さを感じ、常日頃から自分を支えてくれている周りの方々への感謝の気持ちを持つことの大切さを学びました。また、他校の仲間と交流



私、山梨県中銀スタジアムで開催された関東選抜高校新人陸上競技大会に400mハードルで出場し、優勝を成し遂げることができました。強い選手が集まる中で、優勝することができ

陸上競技部

さらにも上へ飛躍誓う

小川 詩織(上尾市立南中学校)

関東選抜大会優勝

出来ました。今まで私の為に周りで支えてくださった方々への感謝の気持ちを伝えられることが出来た試合になったと思います。今後は「世界大会でメダルを獲得出来る選手」を目標に、進路先でも強いメンタル作りや人間形成に精進していきたくと思います。

か、大きな不安を感じていました。2年生は4名しかおらず、このままでは全国大会で優勝を成し遂げられなく感じていました。しかし、チームが一致団結し、来年の沖縄インターハイを目指すと強い目標を定め、この夏から強い意識を持って練習を積んできました。



栄誉ある表彰台にて

めしました。これまでの先輩方の活躍する姿に憧れを持ち、自分もインターハイに出場したいという強い思いがありました。入部当初、憧れの先輩方と同じユニフォームを着ているだけでも喜びを感じていましたが、実績もなく大きな舞台で活躍するほどの実力はありません。本校陸上競技部に入部できて本当に良かったと思っています。多くの方々に支えられて、素晴らしい環境で陸上競技ができています。結果として恩返しができるようにしたいと強く思っています。今大会を通して、優勝という結果を果たすことができ、チームを前に進めることができました。今大会の記録は満足していませんが、大きく飛躍できるように今後も練習に励んでいきます。高校生最後の沖縄インターハイに出場し、国際学院高等学校陸上競技部の10年連続インターハイ出場を成し遂げられるよう努力していきます。



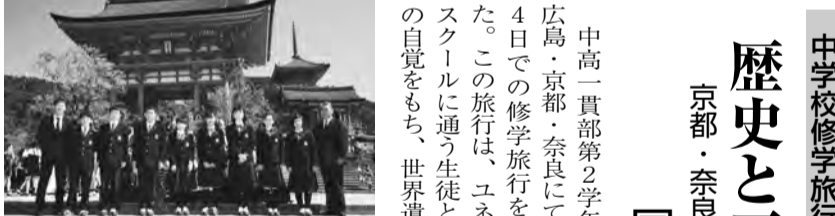
写真はフェアウェルパーティーの様子

インドネシア中学校来校

3度目の来校、より深い交流に

11月2日から8日まで、インドネシアの中学校であるSekolah Islam Fitrah Al Fikri(セコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリ)から教員2名・生徒11名の計19名が本校で滞在し、本校生徒と様々な交流活動を行った。今回の来校は一昨年に続き3度目の来校であり、本校とセコラ・イスラム・フィットラ・アル・フィクリの交流がより深いものになっている証左であろう。主な交流内容としては、

あまり馴染みのないインドネシアの様子を知る良い機会を提供してもらった。6日には、再び大宮キャンパスに移動して、通信課程の生徒と交流を行った。7日は午前中に一貫部の生徒と理科の実験教室を行い、アイスクリーム作りやシャボン玉の実験などを行いな



日本文化に触れた4日間

歴史と平和を学ぶ

京都・奈良・広島 3泊4日

国際感覚も磨く

中高一貫部第2学年は、広島・京都・奈良にて3泊4日での修学旅行を行った。この旅行は、ユネスコスクールに通う生徒としての自覚をもち、世界遺産に

クラブ活動報告

クラブ活動報告

モンゴル料理講習会開催

食を通じて国際理解学習

7月12日(木)に講師の下村ハンダスレン先生をお迎えし、東アジア北部に位置する内陸国であるモンゴルの料理を、食物調理コースの生徒64名が学習した。

この講習会は、本校が2010年7月にユネスコスクールへ加盟して2011年から「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」



下村ハンダスレン先生の実演

ト」として日本ユネスコ協会連盟より助成を受け実施されており、2012年から毎年、公益財団法人「埼玉県国際交流協会」にご協力をいただき、食を通じて国際理解学習を行うプロジェクトである。

本年度の講習会のメニューは、「ホーシヨール」「ホーシヨール」は生地に、イースト菌や食塩、砂糖やバター等を使用するのに対し、「ホーシヨール」は薄力粉と水の2種のみと非常にシンプルだ。

また、生地のみならず独特で、この工程に苦戦する生徒が続出した。それでも、下村ハンダスレン先生の実演を間近で見学し、意欲的に挑戦する姿が見られた。

今回学んだモンゴル料理は、保護者をはじめとする多くの人たちに紹介することを目的として、9月8日(土)、9日(日)に国際学院中学校高等学校で開催された「五峯祭」の模擬店で、ス

ユル(羊肉と野菜のスープ)、「トゥムスニースラトゥウ(じゃがいものサラダ)」の計3品であった。

「ホーシヨール」は、小麦粉の生地にひき肉を詰め油で揚げた料理で、ロシア料理の「ピロシキ」に近いものを感じる。しかし、「ピロシキ」は生地に、イースト菌や食塩、砂糖やバター等を使用するのに対し、「ホーシヨール」は薄力粉と水の2種のみと非常にシンプルだ。

また、生地の包み方も独特で、この工程に苦戦する生徒が続出した。それでも、下村ハンダスレン先生の実演を間近で見学し、意欲的に挑戦する姿が見られた。

毎年、海外研究の事前学習として、国際理解教育を推進し、世界の様々な地域の文化を学ぶために実施されている。カナダは多文化社会であり、世界には様々な文化が共生していることと実感するため、この学習会でそれぞれの地域の文化およびその背景を学び、自国文化との相違点および類似点について理解することが目的である。

今年度も「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」の助成を受けたプ

世界異文化学習会

「ロシア」など10か国学ぶ

日本との相違と類似点を理解

万人受けするか不安であったが、本校の教職員を筆頭に多数の称賛を得る事ができた。たいへん嬉しく思う。これは生徒一人ひとりの自信と喜びに繋がる貴重な体験となった。

このモンゴル料理講習会を通じて、異国の食文化に触れることは、さまざまな国に目を向けるきっかけとなり、日本の食文化との違いについて考える良い経験となった。

そして、グローバルな視野を広げる貴重な学習会となった。

2年生は学習に真剣に取り組むつつ、下級生に助けを借りながら、確かな成長がみられた。3年生は、最上級生として、受験生として、真剣に学習に取り組む姿勢は大変頼もしく、下級生のお手本となった。下級生がそのような先輩の姿を見ることができるところである。このような毎年の積み重ねが、夏季進学合宿の良き伝統として受け継がれていくのであろう。

心通じる貴重な体験

IFW in Italy

2年J組 坂上 愛優

9月22日から29日まで4日間のイタリアのトリエステで行なわれたInternational Friendship Week (IFW)に参加しました。自分を含め英語が得意な人ばかりで、最初は何を言っているのかさっぱりわからなかつたのですが、会話を交わしているうちにだんだん

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



IFWを終えて

2年J組 田村 丈

(上尾市立大石中学校出身)

9月22日から9月29日まで開催されたInternational Friendship Week (以下IFW)に参加しました。

僕は小さいころからイタリアという国へ大きな憧れを抱いていたので、今回の開催が決まった時は本当に嬉しく、心から楽しみにしていました。

ローマ市内では、数々の

有名な建造物が残る美しい街並みを見物しました。どの建物も2000年以上あるローマの長い歴史の中で建てられ、現存していることに感動しました。

トリエステでは現地の学校で全9か国の学生たちが集まり、自国の特徴や文化を発表し合っていました。

様々な国の同世代の人たちと英語でコミュニケーションをとる、話すことが出来るとても良い機会になりました。

ホームステイでは家族と一緒に生活する中で、

自分を含め英語が得意な人ばかりで、最初は何を言っているのかさっぱりわからなかつたのですが、会話を交わしているうちにだんだん

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



2年J組 坂上 愛優

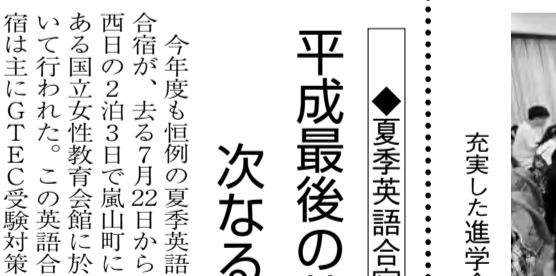
今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。



今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

今年度も恒例の夏季英語合宿が、去る7月22日から西日の2泊3日で嵐山町にある国立女性教育会館に於いて行われた。この英語合宿は主にGTEC受験対策を中心として、大学受験での英語4技能試験対策も兼ねて開かれているものである。今回はGTECにスピーキング試験も新たに加わったため、その対策も盛り込まれた。

学年、学科を超えた交流

体育大会・体育祭



フェアプレー精神で取り組む (中高)

得点板導入で優勝目指す意欲高まる

体育大会の委員長として仲間と一緒に昨年度の課題を振り返りました。昨年度の体育大会は競技中の得点が見えなかったため、今年度は得点板を導入しました。得点板を導入することで、得点を計算したり、作戦会議をしたりして、どのクラスも優勝を目指して競技に参加する様子が見られました。

チームワークの大切さ学ぶ

体育大会委員長
幼児保育学科2年C組 赤坂 京香



中学は白組が優勝

高校は色別対抗戦実施

中学校高等学校の体育祭は5月28日、上尾運動公園陸上競技場において開催された。当日は天候が不安視され、一時中断もされたが、無事全競技を行うことができた。

中学校の対抗の部では、白組が優勝を果たした。また、午後に行った演技発表においては練習の成果を十二分に発揮し、見事なパフォーマンスを披露した。今年度より高校生の部では学年縦割りの色別対抗戦

五峯祭

大 委員増やし活動充実

幼児保育学科2年B組 小室 里帆



今年の五峯祭は、「咲せよ五峯の花」をテーマに開催し、好天の中4、803人が来場されました。五峯祭の開催に向け、学科を超えての協働は様々な困難がありました。学生一人ひとりの声を大切に、一緒に考えることを心がけるとともに、一つひとつの問題に丁寧に取り組

つみ、大きな事故もなく、多くの笑顔溢れる五峯祭となりました。また、運営面では、昨年比べて五峯祭委員を増員し、その結果、より充実した委員会活動を行うことができました。

委員増やし活動は、総括、学生委員をはじめ、先生方のご指導・ご助言を頂きながら、日々の学修成果を多くの方々に見て頂けたと思います。私は、これらの経験を通して「報告・連絡・相談」がいかに大切なものであるかを改めて学ぶことができました。

中学校高等学校

大盛況の2日間!

模擬店や部活動紹介活況

9月8日(土)・9日(日)、快晴のもと、第21回「五峯祭」が「New Stage」希望を胸に「の」のテーマのもと開催された。

今年度のクラス展示最優秀賞には3年C組「トレジャハン」が選ばれ、クラフトショップコンテストでは1年J・K組の合同デザインが最優秀賞を受賞した。中学校では1年生がクイズ形式による世界の紹介、2年生がオリジナル動画、3年生が演劇を披露し好評を博した。

調理師専攻による模擬店は例年通り活況をきたし、スムーズに発表することができたので嬉しかったです。今回のオーストラリア研修を通じ、異国の文化に

れ、自主性も高めることができました。このような体験ができ、自分が成長することができて本当に良かったです。

今年度のオーストラリア研修を通じ、異国の文化に触れ、自主性も高めることができました。このような体験ができ、自分が成長することができて本当に良かったです。

また、五峯祭に欠かすことのできないほど恒例となつた伊奈町備前太鼓公演、保護者会によるカフェで

カナダの文化や習慣学ぶ

国内は福島で語学研修、座禅体験

今年度も高等学校第2学年の海外研修・語学研修・国内研修が実施され、大きな成果を得た。

海外研修コースでは、2泊3日のホームステイ、バンクーバーやビクトリアでの班別研修、現地の高校生との交流などを行った。カナダの文化や習慣などを体験的に学ぶ貴重な機会となった。

語学研修コースでは提携大学である、バンクーバーアイランド大学での語学研修プログラムに参加した。

座禅体験などのコースについて再認識するよい機会となった。

飯田市で農山村や自然体験研修

研修旅行(通信制課程)



研修旅行(通信制課程)

オーストラリア研修

チャレンジ精神身に付く

オーストラリア研修を通して様々なことを学びました。はじめのホームステイでは直に異国の文化に触れることで体験して得ることが多くありました。特に私は英語が特別得意な方ではありませんでしたが、ジェスチャーなどで表現するこ

とにより、コミュニケーションをとることが日本にいた時よりも上達していました。また、何事にもチャレンジしてみる精神もつき、自主性も身についたと思います。

シドニー大学ではオーストラリアの食事の考え方や栄養士のことについても教えていただきました。日本との違いなどを詳しく教えていただき、食事の考え方や栄養士のことについても教えていただきました。

カナダ研修では、12日間のホームステイとバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、2日間のビクトリア

おおよそバンクーバーでの市内観光を経験しました。ホームステイでは、文化の違いに戸惑いを感じる部分もありましたが、分からない単語はその場で調べる等して自分から積極的にコミュニケーションを取り、ホストファミリーと楽しく会話をしたり、毎晩一緒にコメディドラマを観たりする等、充実した毎日を送ることができました。

国内研修は、宮城県仙台市と松島を中心に実施されました。初めは全員の気持ち研修に向けておらず、実行委員長として不安に思うことも多かったですが、

国内研修は、宮城県仙台市と松島を中心に実施されました。初めは全員の気持ち研修に向けておらず、実行委員長として不安に思うことも多かったですが、

カナダ研修

異文化に触れた有意義な研修

カナダ研修では、12日間のホームステイとバンクーバーアイランド大学(VIU)での講義とアクティビティ、2日間のビクトリア

国内研修

充実の宿泊研修に

国内研修は、宮城県仙台市と松島を中心に実施されました。初めは全員の気持ち研修に向けておらず、実行委員長として不安に思うことも多かったですが、



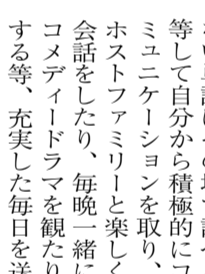
国内研修

授業を重なることに全員の研修への熱意が高まっていたのを感じました。事前学習においては、各班が研修目的や内容、所要時間などのスケジュールを具体的に考えることが出



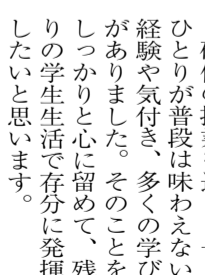
オーストラリア研修

今年度のテーマ「The LOVE The (シ) 愛」のもと、フェアプレー精神で各々取り組んだ体育祭であった。



カナダ研修

国内研修は、宮城県仙台市と松島を中心に実施されました。初めは全員の気持ち研修に向けておらず、実行委員長として不安に思うことも多かったですが、



国内研修

国内研修は、宮城県仙台市と松島を中心に実施されました。初めは全員の気持ち研修に向けておらず、実行委員長として不安に思うことも多かったですが、

第1回ホームカミング講座開講

57名の卒業生が受講

「発達障害と対応法」学ぶ

五峯祭に合わせ開講

「今後の保育に生かせる」と好評

短期大学では、卒業生の支援を目的に「卒業生調査」で講座の内容として希望が多かったものを「ホームカミング講座」として位置づけ、多くの卒業生が来学する五峯祭に合わせて開講した。

第1回は、希望の多かった発達障害とその対応法等についての内容で、11月3日、埼玉大学教育学部付属特別支援教育臨床研究センターの高田専門相談員を講師に迎え、「幼稚園・保育園における気がかりな子

どもへの対応」子どもたちの困り感に寄り添って」をテーマに開催した。

参加者は、現職の幼稚園教諭や保育士が多く、定員40名に対し57名からの申し込みがあり、同テーマに対する関心と期待の高さがうかがえた。

講演内容は、多くの事例に基づき「あたりまえや頑張り」で来たことへの称賛の活用」や「発達障害とは何か」「発達障害支援を意

短期大学学友会活動報告

さらなる進化 後輩に期待

学友会執行委員

専攻科健康栄養専攻2年 細田 幸汰

5月に定時総会を開催し、今年度の活動計画や役員選出等の議題の審議を行いました。また、その後の体育大会において、学友会企画として全員参加型の「じゃんけん大会」を行いました。定時総会から体育大会まで、日にちがない状態でどちらも無事に終えることができたのは、学友会役員一人ひとりが自分の仕事を遂行したからだと感じています。

10月、五峯祭準備では、同窓会の先輩方と学友会役員が話し合い、当日の計画と準備の打ち合わせを行うことができたため、五峯祭当日は差無く進行し、来場者の方々にも楽しんでいただくことができました。同窓会の方々との関わりを通して、社会で働く栄養士、調理師、保育者の先輩方の現場での技術を間近で見ることができたことは、私たちにとって大きな糧となりました。また、今抱えている不安などを先輩方に相談できたことが、今後の大きな手がかりになったと思います。

昨年までは「大宮夏祭りこども広場」のボランティア

同窓会活動報告

同窓会会長に新野忠史氏(けやき会)再任

平成30年度国際学院埼玉短期大学同窓会臨時総会が7月22日、大宮キャンパスで開催された。

今年度は役員改選の年度に当たり、日曜日にも関わらず、大野誠同窓会名誉会長、大野博之同窓会顧問をはじめ、多数の役員が出席し、盛会となった。第一号議案である役員改

選の審議の結果、現会長の新野忠史氏が満場一致で再任された。

また、中村治美副会長(つくし会会長)、大野智子副会長(あすなろ会会長)も再任され、新たに副会長として、河越正美氏(けやき会会長)が選出された。再任された新野会長は、今年4月から、短期大学

の学食(いろどり亭)を担当しており、後輩でもある学生や地域の皆様に少しでも喜んでいただける料理を提供したい。また、「同窓会活動を通して母校である国際学院の充実、発展のため、役員とともに尽力したい」との挨拶があり、平成30年度同窓会が新役員のもと力強くスタートした。

選の審議の結果、現会長の新野忠史氏が満場一致で再任された。

伊奈町のお米を使った料理コンテストで優秀賞受賞

健康栄養学科の石坂七絃さん



優秀賞を獲得した石坂七絃さん

伊奈備前守忠次公の功績を広く知ってもらおうと伊奈町の豊かな恵みである「お米」をもっと多くの人に味わってもらおうことを目的に、コメ・米粉を使った「伊奈で採れるおいしいお米で、米」(マイ)レシポコンテストが11月24日、伊奈町で開催された。

1次審査(書類審査)を通過した5人による2次審査(調理審査)が実施され、短大健康栄養学科1年A組石坂七絃さんが、「伊奈町の真珠蒸し」と題し、団子の中心に栗を入れ、周りに米をまぶし枝豆でトッピングしたメニューを提案し、優秀賞を受賞した。



五峯祭で子どもたちとふれあっている様子

礼申し上げます。今回の五峯祭の運営では数々の専門委員会と協力することを意識しました。なるべく多くの生徒が五峯祭の運営に主体的に関わるよう、より活気あるイベントにしたいと考えたからです。

生徒会本部としては、各委員会それぞれの役割の決定、Tシャツコンテストの開催、エンディングムービーの作成、さらに五峯祭実行委員の皆さんと協力して校舎全体の装飾を行うなどといった活動を行いました。

加えて、前年度の五峯祭で2号館の来場者数が少なかったという反省に基づき、2号館に向かう順路を確立し、方向を示す掲示物を貼ることに加えて前年度は行っていた無かった2号館全体の装飾を実施するなどの工夫を凝らしました。

その成果もあってか、昨年度に比べ2号館に入りに来てくださる方が増えたという印象を受けました。また、毎年の課題であるTシャツコンテストの投票者数についても、一票でも投票数を増やし、コンテスト

の人々に味わってもらおうことを目的に、コメ・米粉を使った「伊奈で採れるおいしいお米で、米」(マイ)レシポコンテストが11月24日、伊奈町で開催された。

今年度の活動としては各種募金活動、アッセンブリなどの運営、そして最も

常に斬新に、今残せる最高の結果を目指して

高等学校・中学校生徒会活動報告

第21回五峯祭は9月8日、9日の2日間にわたり祭の運営です。



金崎なぎささん

開催させていただきました。五峯祭を成功させるうえで協力してくださった多くの方々、またご来場してくださった皆様にご協力いただき、コンテスト

今年度の活動としては各種募金活動、アッセンブリなどの運営、そして最も

来年度も更なる発展を目指し、全身全霊を傾けて取り組んでいただけたら幸いです。



高田専門相談員の講演を熱心に聴く卒業生



細田幸汰さん

卒業生の近況報告

国際学院埼玉短期大学平成18年卒業



病院保育室勤務

梅澤佐季子

私は国際学院埼玉短期大学を卒業後、認可の保育園に8年勤務しました。1年目は2歳児クラスの担任をさせて頂きました。が、「魔の2歳児」と言われるイヤイヤ期の子とも達と過ごす1年間は毎日必死であつたという間でした。しかし何とか周りの先生方に助けて頂きながら、保育士になって初めてのクラス

「働く保護者の力に」

をやり遂げ、3歳児クラスへ送り出すことができました。一緒に過ごしてきた子ども達を振り返ると、とても大きな成長が見られた1年間でした。オムツがはずれ、言葉のやり取りもできるようになりました。お友達と手をつないで散歩ができるようになりました。私はこのような子ども達の成長をもっと長く見守っていきたく感じるようになりました。

社会で役立つ短大時代の協調力

自分たちで話し合うようになり、運動会などの行事では年下の子を引っ張っていかけてくれるようになりました。このような子ども達の成長を見て、自信をもって子ども達を小学校へ送り出すことができ、保育士としてのやりがいを感じるようになりました。

私の短大での2年間の思い出は、同じクラスの友達と五峯祭や体育祭などの行事に力を入れてきた事です。朝、お昼休み、放課後、できる限りの時間を使って話し合ったり、準備をしてきました。行事の後はクラス全員で反省会もしました。その成果が最優秀賞を頂いたり、今でも良い思い出として残っています。

私は、9月15日に四年制大学入学試験を終えました。この日に向かって、8月2日から5日に行われた陸上競技の全国高校総体も控えており、部活動の活動時間の空いている時間を活用して勉強をしていました。

進路体験記

部活動との両立に成功

大久保清楓（上尾市立上尾中学校）

日本女子体育大学進学



陸上競技続け記録向上めざす

ある絵本の読み聞かせの練習もしました。合宿後は、部活動には参加せずに練習の時間を利用して入試日まで勉強をしていました。面接練習は、毎日顧問の児玉先生に指導を受けていただきました。

附属幼稚園で実習学べる魅力

私が日本女子体育大学を受験した理由は2つあります。1つ目は、附属の幼稚園があるということで座学だけでは学べない実習や演習を通して学べることに魅力を感じたからです。2つ目は、小学生から始めている陸上競技を続けたいと考えているからです。高校では納得のいく記録を出すことができなかったのですが、大学に入って記録を伸ばしたいと考えたからです。

ベスブック

「ぼー」は、ウラルフクロウとモリフクロウのハイブリッド（混血）。動物好きの集まる「フクロウカフェ・リトルズ」に通ううちにフクロウに魅せられ、「ぼー」を飼うことになった苅谷さん。「ぼー」と暮らす苅谷さんの日常が、楽しく描かれている。



苅谷夏子・著
『フクロウが来た』
『ぼーの日常』
筑摩書房

動物好きもそうでない人にもお薦め

動物好きの方は、あまり馴染みのないフクロウの習性などに興味を惹かれるかもしれない。「動物はちよつと」という方は、朝から冷凍のウズラを解体して餌をやったり、糞を処理したりして「ぼー」と暮らす筆者の

国際学院埼玉短期大学 幼児保育学科 学科長

中村 敏男

心理状況を分析してみると、私はいかにがだるうか。私はといえば、「フクロウが来た」という題名に惹かれて読んだ本ではなかった。結論を先に言え、この本を手にしたのは「苅谷夏子先生」の書いた本だからである。そして、その本から得た

心癒めるフクロウの話

「ぼー」と苅谷さんの口聲

ロウが来た」という題名に惹かれて読んだ本ではなかった。結論を先に言え、この本を手にしたのは「苅谷夏子先生」の書いた本だからである。そして、その本から得た

勉強会の指導者。本書の中で2カ所、大村は先生の当時の様子が紹介されている。少し脇道にそれるが、本書の中の「褒められた喜び」というのは、「ちゃんと見ていてもらった」という喜びでもあった。という筆者



「ぼー」のしぐさや、筆者の温かな眼差しに引き込まれることになる。それは、苅谷さんの飾らぬ人柄、読み手の反応を計算したユーモア、「ぼー」へのいとおしさに溢れた観察眼によるものであると考える。埼玉県の国語

生半可な気持ちで読むわけにはいかない。一言一句きっちり読み込まなくては。」「いかがでしたか？」などと感想を求められたらどうしよう。読む前は、かなり緊張感があった。

「現代の暮らしは、生々しいことをできるかぎり排除して、できるだけこざいかに、においも穢れも死もどこかへ隔離し、そんなものは最初から無かったようなふりをし、気持ちよくものごとが進むように工夫の限りが尽くされている。(P48)」「鷹匠と鷹とカモがいた冬の原で、命は決して軽視されていなかった。むしろそれを直視するしんとした気持ちが枯れ野原で共有されていたように思う。(P123)」

「ぼー」との暮らしの中で、命という現実に向き合う苅谷さんの真摯な姿勢が伝わってくる。

教育振興資金（寄付金）の募集

教育・研究の充実にご協力を！

本院は、今年、創立55周年を迎え、中学校高等学校、短期大学において、建学の精神及び教育方針に基づいた「人づくり教育」を実践し、社会に有為な人材を排出しています。こうした中、より充実した教育を実施するために、各種奨学金制度や海外研修の充実など、教育研究環境の整備等を一層進めていく必要があります。こうしたことから、多くの皆様方のご支援を得てこれらの課題に取り組むべく、教育振興資金として寄付金を募集しています。

資金として寄付金を募集しています。

中学校高等学校、短期大学ともに、①教育研究の充実 ②奨学金の充実 ③教育研究施設・設備の充実を目的に募集し、使用させていただきます。

近年の施設設備等教育環境の充実として、中学校高等学校において、2号館新校舎の竣工、本館並びにマコトホールの空調設備の全面改修、テニスコート（人工芝3面）の新設等を行っています。

短期大学においても、校庭の人工芝化、本館トイレの改修、合同教室の机・椅子のリニューアル、本館のバリアフリー化（車いす用昇降機を設置等）等を実施しております。

また、寄付金については、税制上の優遇措置を所定の手続きにより受けることができます。詳細については、短期大学のホームページに「教育振興資金募集について」として掲載しておりますのでご参照ください。

https://sc.kaget.ac.jp/ お問い合わせは、短期大学会計課まで。